



横綱・白鷹が六場所ぶり三十八度目の優勝を飾った平成二十九年夏場所。高田川部屋では、輝、竜電の両関取を筆頭に、幕下上位の白鷹山、安芸乃山、安芸ノ花が揃って勝ち越しを決めた。

幕内・輝はまたもや初日から二連敗。周囲をひやひやさせたが、そこからは怒涛の六連勝。終わってみれば昨年の九月場所以来の九勝をあげ、自己最高位更新を決めた。解説の親方衆からも突き押しの破壊力が増していると言わしめ、若手の有望株と称された。欲を言えば、勝てた勝負をきっちりとモノにすることだ。そうすれば幕内で自身初の一桁勝ち星は手に入っているだろう。番付が上がり、幕内上位となれば当然、あり得る。輝の進化の通知



白鷹山 十両昇進へ勝負の場所

昨年の五月場所では自己最高位の幕下東の筆頭まで上りつめた白鷹山だったが、

体調を崩し、一時は体重が三十キロちかくも減つて幕

下二十七枚目まで番付を下

がけた。力が出せず、あっさり土俵の外へ押し出される相撲が続いた。しかし、体

調の回復とともに、徐々に白鷹山らしい粘りのある相

撲が戻ってきていた。先場

所では体重も百六十キロま

で戻り、五場所連続勝ち越

し。しかも、ここ二場所は

連続の五勝と一年前の好調

七年目暑い名古屋で十両

内・輝の一年後輩。しかし、

五勝をあげた大乗。順風満

た先にある。量、質ともに輝とは違い全く相撲経験のない。場所中は朝稽古をしてから場所入り、取組が終わって部屋に戻ってからもまた両関取で稽古をしている。

しかし、目指す頂はまだま

だ。まだこじぞという勝負に弱

い。場所中は朝稽古をしてから場所入り、取組が終わって部屋に戻ってからもまた両関取で稽古をしている。

しかし、目指す頂はまだま

だ。まだこじぞという勝負に弱